

1 評価の実施方法(各年度の進捗管理)

川崎市総合計画との整合を図りながら評価を実施し、強靱化事業一覧や業績指標についても、計画期間内において適宜見直しを行うこととする。

(1) 重点事業

年度当初に当該年度に実施する具体的な取組を計画し、その翌年度に評価を実施し、計画の改善・見直しを図りながら実施する。

(2) 重点事業以外の事業

川崎市総合計画 実施計画の関連する事務事業評価シートを活用することで、原則として所管課での毎年度の評価入力を省略し、効率的・効果的な進捗管理及び評価を実施する。

(3) 評価方法の一部見直しについて【昨年度の評価から実施】

令和3年度の評価結果について、防災対策検討委員会（防災会議の部会として学識者により構成）から次の意見をいただいた。

- ①外的要因が原因となって目標を下回った事業（評価4）について、代替の手段等の取組を行った場合に積極的に評価する手法が必要。
- ②目標の達成度のみを評価の基準とすると、設定する目標値が低くなっていく。どれだけ難しい目標に取り組み、進捗したのかを正しく評価することが重要。

これらを踏まえ、目標未達成の事業について、「目標自体の困難性」、「後発的な事情による目標達成の困難性」、「代替的な取組」や「目標達成への取組」について調査・確認し、「進捗結果一覧」に該当する取組を追記することで評価を補うこととする。

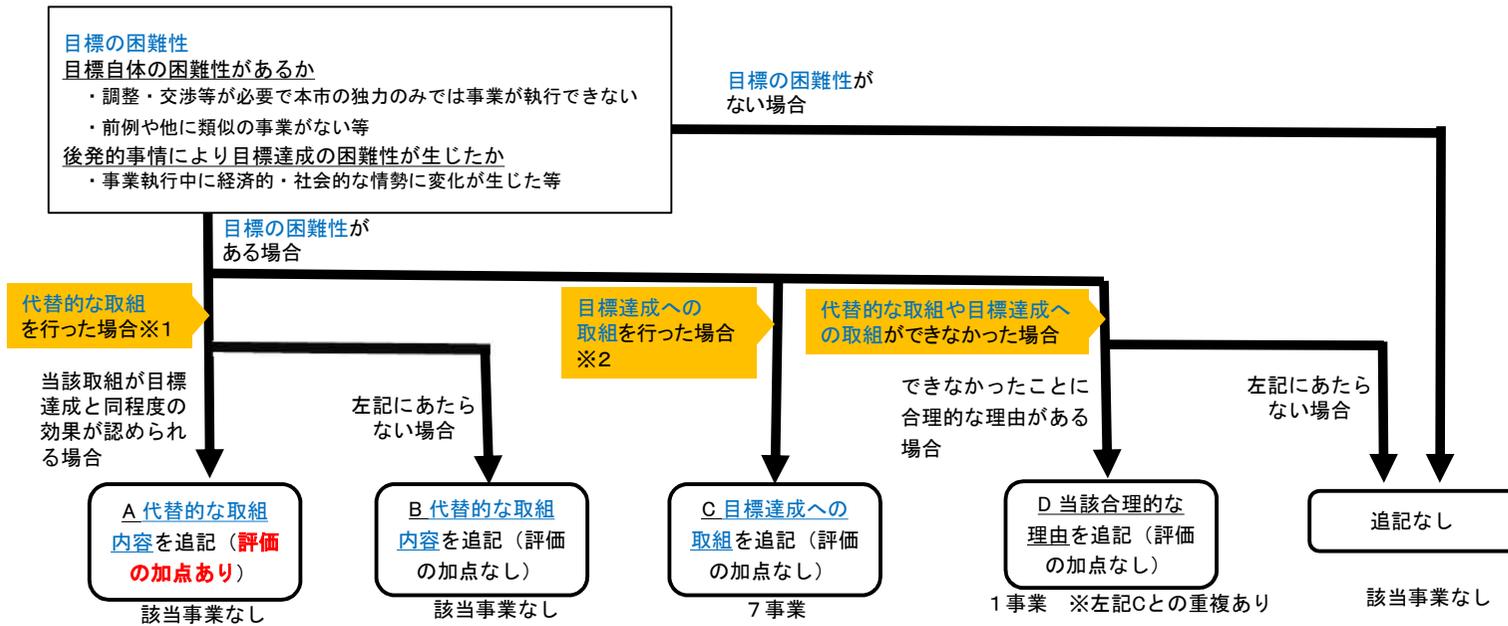
さらに、「代替的な取組」については、本来の取組による強靱化への効果と同程度と認められる場合は、評価への加点（3：「ほぼ目標どおり」で評価する等）を行うこととする。

これらにより、できるだけ目標の困難性を踏まえた評価の実施を目指すこととする。

また、代替的な取組や目標達成への取組ができなかったことについて合理的な理由がある場合にも、この見直しとのバランスから、その理由を追記することとする。

目標未達成の事業に関する具体的な評価フロー

このフロー図は、今後のかわさき強靱化計画の評価の実施状況により、変更する可能性がある



- ※1 「代替的な取組」とは、目標の取組に代えて行われる取組で、例えば、目標である研修会の実施に代えて動画を作成して配信するなど。
- ※2 「目標達成への取組」とは、目標の達成を目指す中で行われる取組で、例えば、目標である工事の完成に向けて手順を変更するなど。なお、この場合には、目標未達成の事実是不変のため、評価への加点は行わない。
- ※3 一の強靱化事業が複数の取組で構成される場合は、目標未達成の取組ごとに上記フローに基づき評価を行い、各取組ごとの評価を総合的に勘案し、当該強靱化事業の評価区分を決定する。

2 令和5年度の評価結果(概要)

(1) 全体の評価結果について

評価区分	事業数			構成比
	重点事業(a)	重点以外の事業(b)	合計(a+b)	
1 目標を大きく上回って達成	0	0	0	0%
2 目標を上回って達成	0	0	0	0%
3 ほぼ目標どおり	50 (0)	95 (0)	145 (0)	95.4%
4 目標を下回った	4 (0)	3 (0)	7 (0)	4.6%
5 目標を大きく下回った	0	0	0	0%
合計	54	98	152	100%

- ※1 評価区分は、総合計画における事務事業評価と同一の基準を使用
- ※2 ()内は、上記「評価フロー」において「A」に対応（事業数の内、代替的な取組の実施により評価を加点した事業数を示す）

(2) 評価4 (目標を下回った) となった事業 計7事業

ア 重点事業 (4事業)

NO	事業名	評価理由等
19	海岸保全施設の改良	<p>【評価理由】 新たな2箇所の陸閘改良について、工事箇所に位置する支障物の養生方法を変更した上で工事スケジュールを見直す必要が生じ、完了に至らなかったため。</p> <p>【C 目標達成への取組】 工事エリアに立地する企業の要望を踏まえた施工方法や工程を提案し、密に協議・調整を行い、安全かつ円滑な工事実施に取り組みました。</p>
33	配水池・配水塔の整備	<p>【評価理由】 工事に伴い発生する騒音・振動に対し、強い陳情を受け、調整が必要となり、工事完了に至らなかったため。</p> <p>【C 目標達成への取組】 低騒音・低振動の施工方法等の検討、施工計画を見直し、陳情者の理解を得ながら、円滑な工事の実施に取り組みました。</p>

ア 重点事業（続き）

NO	事業名	評価理由等
43	踏切の立体交差化の推進	<p>①京浜急行大師線連続立体交差事業</p> <p>【評価理由】 目標とする令和5年度の小島新田駅から東門前駅間の完成について、新駅舎に設置する非常用発電機が半導体不足等の影響により納期が長期化したことなどから、完成が令和6年度に変更となったため。</p> <p>【D 代替的な取組や目標達成への取組ができなかった合理的理由】 駅舎に設置する非常用発電機に必要な半導体については、鉄道電源として起動回数が多いという特殊性から、他の製品では代替できないものであり、仕様変更などによる対応ができなかったため。なお、非常用発電機の納期が長期化したものの、鉄道事業者と協議調整し、工程の組み直しなどを行うことにより、令和5年度に各新駅舎の使用を開始しました。</p> <p>②JR東日本南武線連続立体交差事業</p> <p>【評価理由】 目標とする令和5年度の都市計画決定について、都市計画手続きの過程において、国から、都市高速鉄道と都市計画道路が重複する箇所に係る助言を受け、国や鉄道事業者などと再調整を行ったことから、都市計画決定が令和6年度に変更となったため。</p> <p>【C 目標達成への取組】 都市高速鉄道と都市計画道路が重複する箇所について、道路法の区域として検討するため、高架下利用、鉄道施設の維持管理、縦断占用の3つの課題について、国や鉄道事業者などと再調整を行い、それぞれ調整が図られたことから、令和6年8月に都市計画決定を行いました。なお、都市計画決定は、令和6年度に変更になったものの、令和6年度の事業認可の取得、令和15年度の下り線高架化による開かずの踏切の解消、令和21年度の完成など全体の事業スケジュールに影響がないよう、鉄道事業者と調整を行いました。</p>
48	小型船係留施設の整備	<p>【評価理由】 事前想定と実際の地盤条件に相違があり、追加の地盤調査を実施し、鋼管杭の長さを伸ばすように設計変更が必要となり、工事完了に至らなかったため。</p> <p>【C 目標達成への取組】 他に前例がない地盤条件であったことから、国の技術研究所と連携を図り、現地調査を重ね、現地の状況を踏まえた設計変更案を作成・提示し、国の技術研究所に確認を得た上で設計変更を行い、早期の工事完了に向け取り組みました。</p>

イ 重点事業以外の事業（3事業）

NO	事業名	評価理由等
12	消防団員の確保・充実	<p>【評価理由】 令和5年度の目標とする消防団員の充足率87.2%について、78.4%となったため。</p> <p>【C 目標達成への取組】 募集動画の作成、新聞への折り込みチラシの配布、機能別団員募集説明会の開催、備えるフェスタなどの防災イベントでのPR活動、大学学園祭における消防団員募集広報の実施、アンケート調査などに基づく入退団要因の分析など、消防団員確保に向けた取組を行いました。</p>
71	生産緑地の指定の推進	<p>【評価理由】 令和5年度の実績が8,220㎡となり、目標とする12,000㎡を下回ったため。</p> <p>【C 目標達成への取組】 JAセレサ川崎と連携し、市窓口やJAにおけるチラシの配布、JA広報誌への記事掲載、HPでの周知などを行うとともに、農地所有者からの個別相談の中で指定申出に関する疑問や懸念事項等に関するヒアリングを実施し、指定要件を満たすための具体的な条件の提示を行うなど、新規指定に向けて取り組みました。</p>
93	地域包括ケアシステムの構築	<p>【評価理由】 令和5年度の目標とする「地域包括ケアシステムの考え方の理解度」について、目標値(26%)を下回り、10.6%となったため。</p> <p>【C 目標達成への取組】 ポータルサイトでの啓発(ほぼ毎日の記事更新、Web漫画の掲載)、地域包括ケアシステム連絡協議会及び同運営委員会の開催、多機関連携推進の中核を担う、包括的相談支援従事者を養成するための研修の開催などにより、地域包括ケアシステムの浸透に向けた取組を行いました。</p>